



## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701

FAX(03)3270-2720

緊急連絡 同上

改訂日 2018/07/04

SDS整理番号 08016230

製品等のコード : 0801-6230

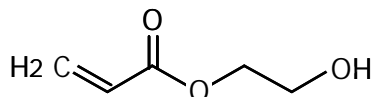
製品等の名称 : アクリル酸2-ヒドロキシエチル  
(アクリル酸ブチル、アクリル酸ノルマル-ブチル)

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
熱硬化性塗料・接着剤原料、合成樹脂の改質剤、繊維加工助剤 など



## 2. 危険有害性の要約



## GHS分類

## 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外  
自然発火性液体 : 区分外

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4  
急性毒性(経皮) : 区分2  
急性毒性(吸入:ミスト) : 区分4  
皮膚腐食性・刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1  
皮膚感受性 : 区分1  
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 区分3(麻酔作用、気道刺激性)  
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : 区分1(呼吸器)

## 環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分1  
水生環境慢性有害性 : 区分3

注意喚起語：危険

## 危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)  
皮膚に接触すると生命に危険(経皮)  
吸入すると有害(ミスト)  
皮膚刺激  
重篤な眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
眠気及びめまいのおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期又は反復暴露による呼吸器の障害  
水生生物に非常に強い毒性  
長期的影響により水生生物に有害

## 注意書き

【安全対策】  
ミスト、蒸気などの吸入を避けること。  
眼、皮膚、衣類につけないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合：汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
直ちに医師に連絡すること。  
目に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	:	単一製品
化学名	:	アクリル酸2-ヒドロキシエチル (別名) 2-ヒドロキシエチル=アクリラート、 プロペン酸2-ヒドロキシエチル、 アクリル酸(2-ヒドロキシエチル)、HEA、 エチレングリコールモノアクリラート (英名) 2-Hydroxyethyl acrylate (EC名称)、 Acrylic acid 2-hydroxyethyl ester、 Ethylene glycol monoacrylate、 Acrylic acid 2-hydroxyethyl、 Propenoic acid 2-hydroxyethyl ester、 2-Propenoic acid, 2-hydroxyethyl ester (TSCA名称)
成分及び含有量	:	アクリル酸2-ヒドロキシエチル、 96.0%以上 (安定剤：ヒドロキノンモノメチルエーテル 約300PPM 含有)
化学式および構造式	:	CH <sub>2</sub> :CHCOOCH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> OH、 C <sub>5</sub> H <sub>8</sub> O <sub>3</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目参照)。
分子量	:	116.12
官報公示整理番号	:	(2)-995
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	:	
CAS No.	:	818-61-1
EC No.	:	212-454-9
危険有害成分	:	アクリル酸2-ヒドロキシエチル ・労働安全衛生法 変異原性が認められた既存化学物質 ・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 1-6(96%) ・毒劇法 毒物「2-ヒドロキシエチル=アクリラート及びこれを含有する製剤」 ・消防法 危険物第4類引火性液体、第三石油類 水溶性

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを全て脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激または発疹が生じた時は医師の手当てを受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。何も飲ませない。無理に吐かせない。 強制的に吐かせると、嘔吐物の一部が肺に入り 高熱が出て出血性肺炎を引き起こす危険性があるため、水などを飲ませ

て無理に吐かせてはいけない。  
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管  
への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流  
を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速や  
かに医師の診察を受ける。

気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入 ; 咳、咽頭痛、灼熱感、息苦しさ  
皮膚 ; 発赤、痛み。吸収される可能性あり。  
眼 ; 発赤、痛み、かすみ眼  
経口摂取 ; 咽頭痛、灼熱感、脱力感。吸引性呼吸器有害性。

## 5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本製品は可燃性である。  
粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧  
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）  
特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。  
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で  
廃棄処理する。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器  
などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
周辺の発火源を速やかに取除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策 : 裸火禁止。  
引火点(101 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気  
装置を使用する。  
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、  
貯蔵所、取扱所で行なう。  
指定数量以上を貯蔵する時は、消防法の規定に従った危険物倉庫に保管  
する。  
指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）を貯蔵する時は、最寄の消防  
署に届出を行い、消防法規定に従った届出倉庫に保管する。  
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要は  
ない。  
炎、火花または高温体との接触を避ける。  
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。  
本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 防爆仕様の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気  
する。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの  
取扱いをしてはならない。  
眼、皮膚、衣類につけない。

	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	: 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	: 光のばく露や高温多湿を避ける。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。 危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤、過酸化物
容器包装材料	: ガラスなど

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:	
日本産衛学会（2017年版）	: 設定されていない。
ACGIH（2017年版）	: 設定されていない。
設備対策	: 防爆の電気・換気・照明機器を使用する。 取扱い場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 無色透明液体
臭い	: 甘い特有の臭い
pH	: データなし
融点	: -60
沸点	: 191
引火点	: 101（密閉式）
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 7.0 Pa(25 )
蒸気密度（空気 = 1）	: 4.0
20 での蒸気/空気混合気体の相対密度（空気 = 1）	: 1.0
密度	: 1.11 g/cm <sup>3</sup>
溶解性	: 水に溶ける（混和する）。 エタノール、ジエチルエーテル、ベンゼンに溶ける（混和する）。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = - 0.21
自然発火温度	: 370
分解温度	: データなし
粘度	: 5.3 mPa·s (0.35cP) (20 )
GHS分類	
引火性液体	: 引火点が101（HSDB（2003））で93 超であることから、 区分外とした。
自然発火性液体	: 発火点が370（GESTIS（access on 7. 2008））で70 を越えている ことから、区分外とした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 重合防止剤（ハイドロキノンやハイドロキノンモノメチルエーテル） 15～300ppmが入っていても、熱、光、水分、過酸化物、鉄錆等が 存在すると重合することがある。 気相部を酸素5～8%含む不活性ガスでシールして保管すると 安定である。 分子中に二重結合を有するため反応性に富む。
危険有害反応可能性	: 熱、光、水分、過酸化物、鉄錆等により容易に重合する。

重合が急速に進むと温度が上昇し、加速的に蒸気圧が上昇して爆発する危険性がある。  
 避けるべき条件 : 熱、高温、光、湿気  
 混触危険物質 : 酸化剤、強酸、強塩基  
 危険有害な分解生成物 : 熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素ガスを発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性** : 経口 5件のラットLD50値 (540, 650, 540, 610, 1070 mg/kg) が得られ(SIDS(access on 7. 2008))、いずれも300mg/kg ~ 2000mg/kg の範囲にあることより、区分4とした。  
 飲み込むと有害(経口)(区分4)  
 経皮 ラットとウサギのデータがあり(SIDS(access on 7. 2008))、値の低いウサギのLD50を採用した。4つのLD50値 (154, 154, 250, 298mg/kg) のうち、2件が区分2、2件が区分3に該当したので、区分2とした。  
 皮膚に接触すると生命に危険(経皮)(区分2)  
 吸入(蒸気) データがないため分類できない。  
 吸入(ミスト) ラットに4時間ばく露により、1.87mg/Lで6匹中1匹が死亡、2.37mg/Lでは6匹中5匹が死亡した(SIDS (access on 7.2008))ことから、LC50値(4時間)は1.87~2.37 mg/Lと推定され区分4に該当するので、区分4とした。  
 なお、飽和蒸気濃度は 69.3ppm (0.329mg/L)であり試験はミストで試験されたと判断される。また、ラットに7時間ばく露の結果として、LC0 = 1.25 mg/L (4時間補正: 2.19 mg/L)、LC100 = 10.58 mg/L (4時間補正: 18.52 mg/L) が報告されている(SIDS (access on 7. 2008))。  
 吸入すると有害(ミスト)(区分4)
- 皮膚腐食性・刺激性** : ウサギを用いた正常または損傷皮膚に原液を24時間適用の結果、広範囲にわたり壊死(表皮)、皮下出血および圧痕浮腫が認められた(SIDS (access on 7. 2008))が、壊死は24時間適用による複数の試験で観察され、各試験とも「強い刺激性 (highly irritating)」と評価されている(SIDS (access on 7. 2008))。しかし、4時間の適用では中等度の紅斑、重度の浮腫および6匹中2匹に表皮壊死が見られ、中等度の刺激性と評価され、本物質は腐食性ではないと結論されている(SIDS (access on 7. 2008))ことから区分2とした。  
 皮膚刺激(区分2)
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性** : ウサギ眼に原液を適用することにより、水疱、腐食および/または潰瘍、また、重度の角膜壊死および眼瞼炎症が認められHighly irritating: とされている(SIDS (access on 7. 2008))。ウサギを用いた別の試験で、広範な結膜の炎症および角膜混濁を生じHighly irritating: Severe injury (Grade 5 reaction on a scale of 1-10)とされ、7日後も維持されていることから永続的視力障害の可能性が示唆されている(SIDS(access on 7. 2008))。以上の結果から、眼に不可逆的作用を示すと考えられ区分1とした。  
 重篤な眼への刺激性(区分1)
- 呼吸器感作性** : 情報がないため分類できない。  
**皮膚感作性** : モルモットのマキシミゼーション法(Maximization test)あるいはビューラー法(Buehler test)による皮膚感作性試験、およびマウスの局所リンパ節試験(Mouse local lymphnode assay)が実施され、各複数回の試験でいずれも感作性(sensitizing)を示し陽性結果が得られている(SIDS (access on 7. 2008))。さらにヒトの疫学調査あるいは症例報告では、本物質を含むアクリル化合物のばく露歴を有し、パッチテストで陽性反応を示した多数の報告がある(SIDS (access on 7. 2008))。これらのデータおよび報告に基づき区分1とした。  
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ(区分1)
- 生殖細胞変異原性** : データ不足のため分類できない。  
 体細胞を用いる in vivo変異原性試験(マウスに経口投与後の骨髓細胞を用いた小核試験、及びラットに吸入ばく露後の骨髓細胞を用いた染色体異常試験)でいずれも陰性(SIDS (access on July 2008))の報告があった。
- 発がん性** : データ不足のため分類できない。  
 ラットに18カ月間吸入試験で発がん性を示す証拠は得られなかった(SIDS (access on 7. 2008))、またマウスに2年間経口ばく露した試験で腫瘍の発生増加はなく、発がん性を示す証拠は得られなかった(厚生労働省がん原性試験(2005))。一方、ラットに2年間経口ばく露により、雄に肝細胞腺腫と前腫瘍性病変である好塩基性小増殖巣の増加が認められ、がん原性を示唆する証拠と考えられた(厚生労働省がん原性試験(2005))。ラットの経口による発がん性は明確ではなくラットの吸入試験とマウスの経口

生殖毒性	:	試験では陰性の結果が得られている。 妊娠ラットの器官形成期に吸入ばく露により母体に毒性を示したが、仔の発生への影響は認められなかった(SIDS (access on 7. 2008))。しかし、交配前からのばく露による親動物の性機能および生殖能に対する影響についてはデータがなく分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	:	ラットの経口投与による急性毒性試験の一般症状として、全用量で活動低下が観察され、別の試験では正向反射の消失の記載もある(SIDS (access on 7. 2008))。また、ウサギの経皮投与による急性毒性試験では全用量でし眠が観察されている(SIDS (access on 7. 2008))。これらの結果から区分3(麻酔作用)とした。一方、ラットに飽和蒸気圧下で8時間吸入ばく露により死亡はなかったが呼吸困難と重度の粘膜刺激が見られたこと(SIDS (access on 7. 2008))、およびヒトで3 ppmの吸入ばく露で鼻腔刺激を生じ、工場労働者ではこれまでに気道刺激が報告されているとの記述(SIDS (access on 7. 2008))に基づき区分3(気道刺激性)とした。 眠気及びめまいのおそれ(区分3) 呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	:	ラットに28日間吸入ばく露(蒸気)の影響は5 ppmでは角膜刺激のみであったが、10 ppm(90日補正:0.015 mg/L)で鼻腔刺激(潰瘍性鼻炎)と息切れが見られ、さらに25 ppm(90日補正:0.037 mg/L)になると重度の呼吸困難を呈し、急激な体重減少とともに呼吸不全で死亡した(SIDS (access on 7. 2008))。その結果、ばく露の影響として呼吸器系と眼が示唆されたこと、かつ発現用量である10~25 ppm(90日補正:0.015~0.037 mg/L)がガイダンス値区分1に該当することから区分1(呼吸器)とした。なお、イヌに97日間およびラットに100日間経口ばく露した試験ではいずれも試験物質の影響は認められていない(SIDS (2006))。 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害(区分1)
吸引性呼吸器有害性	:	データがないため分類できない。

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	:	甲殻類(オオミジンコ)による48時間LC50=0.78 mg/L(環境省リスク評価第7巻, 2009; SIDS, 2006)であることから、区分1とした。
水生環境慢性有害性	:	水生生物に非常に強い毒性(区分1) 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODによる分解度:78%(既存点検, 1991; SIDS, 2006))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 0.48 mg/L(環境庁生態影響試験, 1998; 環境省リスク評価第7巻, 2009)であることから、区分3となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ファットヘッドミノ)の96時間LC50 = 4.8 mg/L(環境省リスク評価第7巻, 2009; SIDS, 2006)であるが急速分解性があり(BODによる分解度:78%(既存点検, 1991; SIDS, 2006))、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow= -0.21(HSDB 2013))ことから、区分外となる。 以上の結果を比較し、区分3とした。 長期的影響により水生生物に有害(区分3)
オゾン層への有害性	:	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考)(1)燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。 (2)活性汚泥法 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
汚染容器及び包装	:	内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って

適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

#### 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 154

##### 国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2927  
Proper Shipping Name : TOXIC LIQUID, CORROSIVE, ORGANIC, N.O.S.  
(2-Hydroxyethyl acrylate)  
Class : 6.1 (毒物)  
Sub risk : 8 (腐食性物質)  
Packing Group : II  
Marine Pollutant : Yes (該当)  
Limited Quantity : 100mL

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2927  
Proper Shipping Name : Toxic liquid, corrosive, organic, n.o.s.  
(2-Hydroxyethyl acrylate)  
Class : 6.1 (毒物)  
Sub risk : 8 (腐食性物質)  
Packing Group : II

##### 国内規制

陸上規制情報 (毒劇法、消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2927  
品名 : その他の毒物 (有機物) (液体) (腐食性のもの)  
クラス : 6.1  
副次危険 : 8  
容器等級 : II  
海洋汚染物質 : 該当  
少量危険物許容量 : 100mL

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2927  
品名 : その他の毒物 (有機物) (液体) (腐食性のもの)  
クラス : 6.1  
副次危険 : 8  
等級 : II  
少量輸送許容量 : 0.5L

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。  
危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。  
車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 変異原性が認められた既存化学物質 (通達日: 2001/03/30 別紙2-1)  
化審法 : 旧第二種監視化学物質 No.1045 (官報公示日: 2010/04/01)  
消防法 : 危険物第4類引火性液体、第三石油類 水溶性液体、指定数量4000L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)  
毒物及び劇物取締法 : 毒物「2-ヒドロキシエチル=アクリレート及びこれを含有する製剤」、包装等級II  
道路法 : 車両の水底トンネルの通行禁止「毒物」(施行令第19条の12)  
化学物質管理促進法 (PRTR法) : 第一種指定化学物質、No.1-6 「アクリル酸2-ヒドロキシエチル」  
船舶安全法 : 毒物類・毒物 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)  
航空法 : 毒物類・毒物 (施行規則第194条危険物告示別表第1)  
大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質「アクリル酸2-ヒドロキシエチル」 (政令番号: 中環審第9次答申の4)  
水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)

「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）  
（注）排水基準に別途、条例による上乗せ基準がある場合は  
それに従うこと。

輸出貿易管理令

: 別表第1の16項（キャッチオール規制） 第29類 有機化学品  
HSコード（輸出統計品目番号、2018年4月1日版）：2916.12-000  
「アクリル酸のエステル」

## 16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

### 取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には  
細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し  
労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、  
紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

### 参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分では  
ありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意  
して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成  
しています。